



ファインスチール

Summer 2013

夏



CONTENTS

01 特集1

第11回 金属サイディング 施工例写真コンテスト

04 特集2

第65回 全国建築板金業者北海道大会

07 ファインスチールを使った 建築設計例 306

山王の住宅

余白が作り出すやわらかく包まれた空間 ——

設計：納谷 学 + 納谷 新／納谷建築設計事務所

11 建築めぐり

テーマ建築 13 丸山雅子

13 街でみかけるファインスチールの施工例 その15

一般社団法人 日本鉄鋼連盟

第11回 金属サイディング 施工例写真コンテスト

(主催：日本金属サイディング工業会 後援：一般社団法人 日本鉄鋼連盟)

日本金属サイディング工業会が一般社団法人 日本鉄鋼連盟の後援により、平成24年7月1日～10月31日に実施した「第11回金属サイディング施工例写真コンテスト」について、ご応募いただいた施工例の写真を中心にご紹介します。



新築部門 最優秀賞

株式会社イケダ工務店 (栃木県)

●江口特別審査委員のコメント

絵書のような作品です。ここまで見事に自然と一体化した金属サイディングの事例は、いままでにあったでしょうか？
金属サイディングという言葉のイメージで、とすれば「異素材」「冷たい」などのイメージをお持ちの方もおいでです。
しかし、この作品を見れば一目瞭然、緑と光と水の中に建物が佇む姿は、おだやかで美しいものです。スローライフに溶け込みました。真ん中のサッシュから向こうの景色が見える解放感、洗練された色遣い。見れば見るほどよく考えられています。
奇抜さを排除した安定感のある秀逸なデザインは、土地に定着し、道行く人の目を奪うことでしょう。

●杉田特別審査委員のコメント

濡れ縁のある中庭のような空間を中心としたコの字型のプランと、その中庭に続く水打ちされたアプローチがとても印象的です。
建物は平屋建てと思いますが、中庭から外に向けて昇っていく片流れの屋根が、鳥の羽ばたきを感じさせています。また、シンプルな外壁に縦方向の木のルーバーと、中庭に面した木の外壁が建物に柔らかさを与えているようです。写真の構成も、伸びやかな建物ははさんで青い空と緑の庭とがバランスよく配置されています。水平方向へのラインがイメージに残り、ゆったりとした印象を与えて良いなと思いました。
きっとこの家は、青い空の下で、庭と一体となって住む家なのでしょう。自然との調和のある住まい方をイメージさせる作品であるなと思います。



池田 秀範さん(代表取締役社長)

印象が重たくならないように、木材ルーバーとモダンウッドを取り入れ、バランスを整えてみた。
また、通りすがりの方が足を止めるような外観を意識しました。

金属サイディング施工例写真コンテストは、**日本金属サイディング工業会加盟8社**が、全国の設計事務所・工務店・金物店・板金店の協力を得て、金属サイディング普及活動の事業として実施しているもので、第11回は全国から1,744作品の応募がありました。新築及びリフォームで建物の外装に金属サイディングを使用したものを対象とし、新築では建物の意匠性・高級感・コーディネート感覚など、トータルでバランスのとれた作品、リフォームでは『施工前⇒施工後』で優れたイメージアップの見られる作品を審査委員会で選考しました。その結果、最優秀賞2作品（新築・リフォーム各1作品）、優秀賞8作品（新築4作品・リフォーム4作品）、入選賞40作品（新築22作品・リフォーム18作品）が選ばれました。

また、今回も昨年に続き応募作品件数に応じた174,400円を東日本大震災被災の被災者支援のための義援金として、3月1日に日本赤十字社を通じ寄付いたしました。

[審査委員会]

- ・特別審査委員 江口恵津子（株式会社ヴェルディシモ代表取締役、インテリアコーディネーター）
- ・特別審査委員 杉田宣生（一級建築事務所 HARUハル建築研究所）
- ・当会審査委員（理事・幹事・技術委員・事務局）

報道プレゼン資料(抜粋)

報道発表会・審査風景

リフォーム部門 最優秀賞

大嶋工業建築研究所 (栃木県)



施工前

福島原発事故の影響で日光市内の現場にたまった放射能を除染した後工事に取りかかりました。既存の銅板屋根を残し外装をすべて撤去した後、外壁の外断熱を施して、耐震性能を建築基準法の2倍を目標に工事を進めました。既存のモルタル外壁より比重が軽く断熱性能が高い金属サイディングを採用しました。フッ素樹脂塗装の外壁なので耐久性も得られます。建物の美しさを追求するとともに、外廻りは周辺環境コンテキストの延長線上で考えました。機能的にウッドデッキや物干しスペース、カーポート、樹木などを配置することにより、建物が地に着くと思っております。



施工後



大嶋 幸一さん(代表)

このたびは素晴らしい賞をいただきまして誠にありがとうございます。これを励みに益々、地域に根差した手づくりの価値ある建築リフォーム、さらにリノベーションを進めて参ります。今後ともよろしくご指導の程お願い申し上げます。

●江口特別審査委員のコメント

ビフォーアフターの劇的さが見事です。少し傾いている物件をここまで生き返らせることができたことに、施工の良さ、職人方の心意気を感じます。全体的に色のコントラストが優しいです。サッシュを白にしたことで、メリハリのついた外観に仕上がりました。ポイントはベランダを1階に移設して木で囲ったこと。デザイン的に大きく印象を変えています。内部の動線も、くらしやすくなっていることでしょう。そして、植栽や庭に張り出すテラスが、街との融和を深めてくれました。家の中のインテリアはどんなかしら？思わず入ってみたいくなる家に変身しました。

●杉田特別審査委員のコメント

郊外でよく見かけられる、南面に大開口を配した2階建て住宅のリフォームですが、外壁だけでなく、玄関ドアやサッシも新しくなり、アプローチもおしゃれになりました。開口部も、適度な大きさのものに改修して、すっきりした印象です。手前の大きなテラス窓に面して作られたデッキは、開放的なイメージを与えてとても良いですね。逆に、玄関から奥では小さくされた開口部と新たに設けられた木のフェンスが、住まいに必要なプライバシーをイメージさせます。2階の外壁面も、すっきりしました。全体にバランス良く、色合いもシックな外壁材を採用されたため、落ち着いた印象の住宅になりました。リフォームして良かったなと思わせる作品であると思います。



新築部門 優秀賞 アーキファクトリー級建築士事務所 (東京都)



新築部門 優秀賞 株式会社Project1000 (東京都)



新築部門 優秀賞 株式会社千代田建築研究所 (東京都)



新築部門 優秀賞
株式会社山陽シーエム
(栃木県)



施工前

リフォーム部門 優秀賞
東日本建材株式会社
(北海道)



施工後



施工前

リフォーム部門 優秀賞
株式会社総建装
(北海道)



施工後



施工前

リフォーム部門 優秀賞
株式会社石川住宅サービス
(石川県)



施工後



施工前

リフォーム部門 優秀賞
松中共同建設
(滋賀県)



施工後

入選施工例はこちらで紹介しています

第65回 全国建築板金業者 北海道大会



〈主催〉

全日本板金工業組合連合会(全板連)
社団法人 日本建築板金協会(日板協)

〈開催日〉

平成25年5月15日(水) 前夜祭
於：旭川グランドホテル
平成25年5月16日(木) 本大会
於：旭川大雪アリーナ

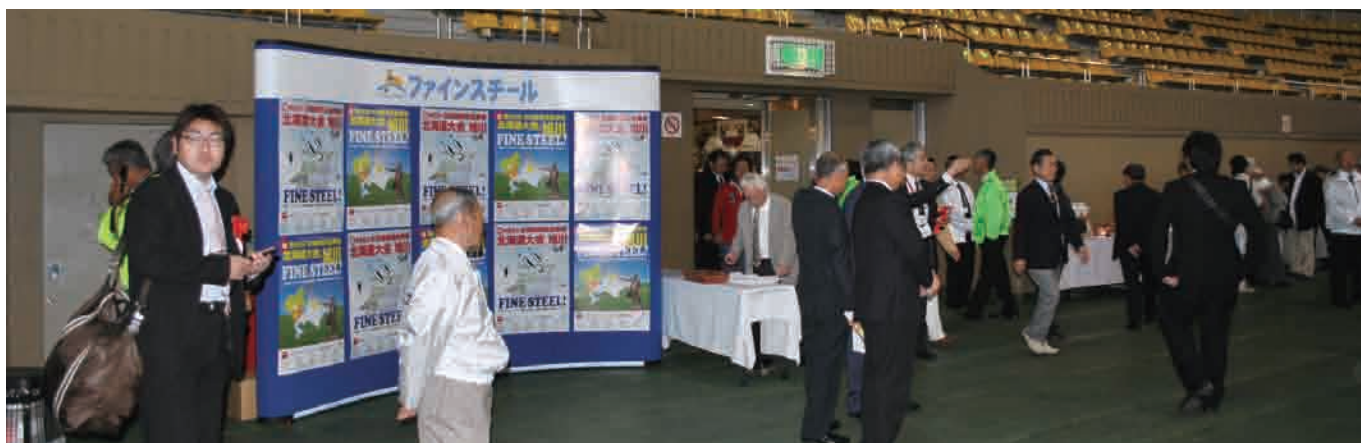


第65回全国建築板金業者北海道大会が平成25年5月16日に北海道の中心、旭川市で開催された。



全国の建築板金業者約3000名が北海道に集結。
第65回の節目のスローガンは
**「全ての組合員の結束力で全板連グループの組織力を
より強く!」「2013年／いま、行動を!」**

そして甚大な被害をもたらした東日本大震災より丸2年
が過ぎた今でも復興が進まない東北ブロックの仲間
たちに建築板金業界が一致団結して今後も一層の応
援を誓う!



前夜祭は、石本惣治大会長(全日本板
金工業組合連合会理事長)の挨拶、
西川将人旭川市長と武田厚 日鉄住
金鋼板社長の来賓祝辞、永井峻 日本
鐵板社長の乾杯、中締めに山田和夫
副理事長(全日本板金工業組合連合
会理事長)の挨拶が行われた。





大会式典は天野宏昌全板連副理事長の開催の辞に始まり、洞内俊北海道板金工業組合理事長が開催地北海道を代表しての挨拶。石本惣治全板連理事長が大会長として挨拶。石破茂衆議院議員・建築板金業振興議員連盟会長を初め高橋はるみ北海道知事、西川将人旭川市長が来賓祝辞を述べられた。

表彰式・大会宣言と続き時期大会開催地代表の磯野恒夫千葉県板金工業組合理事長の挨拶があった。





ファインスチール
を使った

建築
設計例

306

山王の住宅

余白が作り出すやわらかく包まれた空間——

設計：納谷 学 + 納谷 新 / 納谷建築設計事務所

(写真はすべて、吉田誠氏撮影©)

丘陵地に立つ白い家

大田区山王、JR大森駅から西へ長い坂道を登りきると、今回紹介する「山王の家」が見えてくる。建物がひしめく東京においては珍しい、視界の開けた丘の上に建つ住宅である。施主である二人住まいの夫婦の要望は、「眺めの良い白い家」。兄・納谷学氏と、弟・新氏の兄弟が営む納谷建築設計事務所に、直接依頼が舞い込んだ。

変形した台形のような敷地は北西側の一辺で接道するが、前面道路と敷地のあいだには3~4mの高低差がある。多くの住宅を手がける彼らだが、このようなケースは稀だという。道路と敷地を隔てる高低差をいかに克服するか。開けた眺望がゆえに生まれた、この問いへの挑戦には多くの困難があったようだ。

敷地を読む

敷地から一段下がった道路から斜線制限がかかるため、平坦な土地に比べ建物の高さは著しく制限される。軒先の高さや設計GLの設定には細心の注意が払われた。また全面道路の幅員が4mと狭いため、一度入り込むと車の旋回すらままならない状況である。そのためまずは既存の擁壁の一部をえぐり、道路沿いにガレージが設置された。施主は車を保有していないが、とりわけゲストが訪れた際には重宝しているという。

建物の平面は隣地境界線のセツトバックから得られた多角形とし、眺めの良い2階にはリビングダイニングが、また1階には小さくまとめられたプライベートな個室群がそれぞれ配置された。施主の要望である「白い」外壁、そして斜線

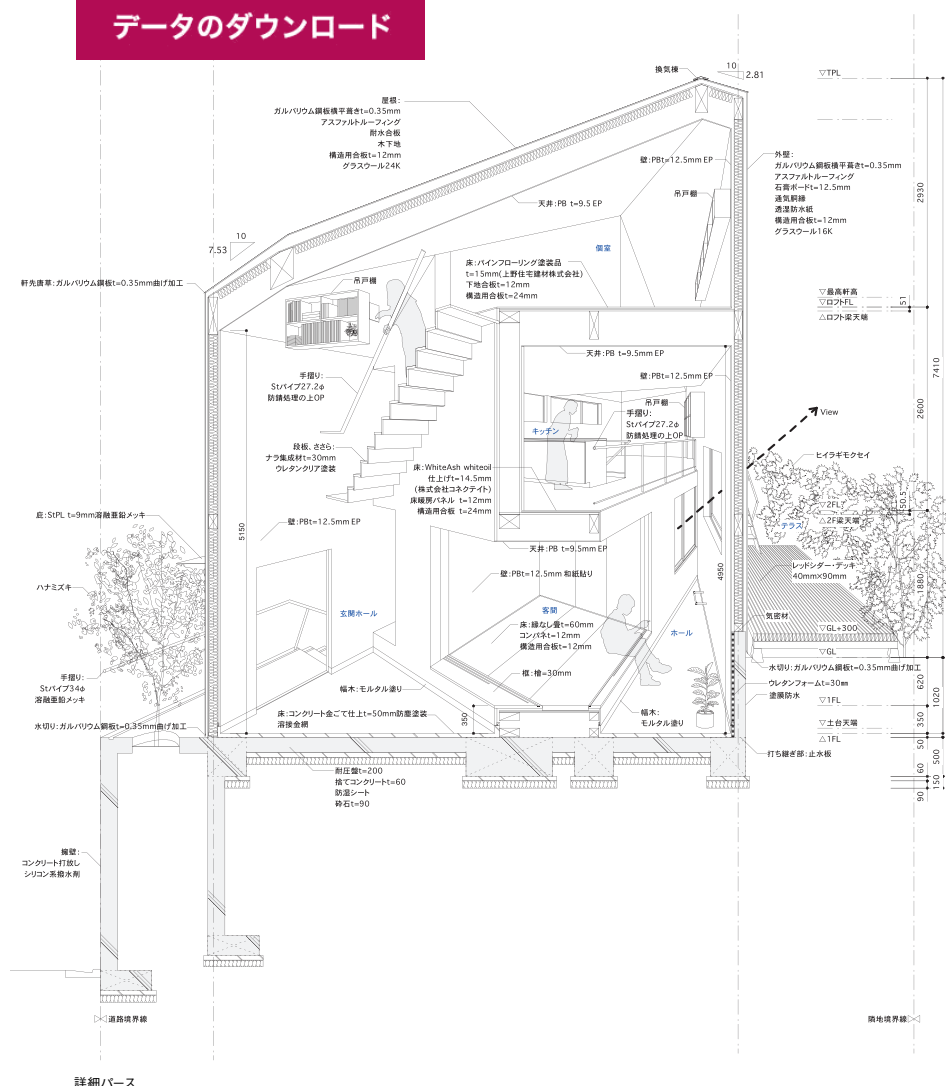


回転させる

外観(夜)。

制限から導かれた多面体の屋根の仕上げはガルバリウム鋼板で統一され、各居室をやわらかく包み込んでいる。敷地の丹念な読み込みと、施主のニーズとの巧みな擦り合わせが伺えよう。

データのダウンロード



「余白」の持つ意味

テントのような木造の変形立方体のなかに、バス・トイレ・階段・客間を収めた矩形のボックスを入れ子状に配置し、ボックスによって切り取られた余白が吹き抜けとなっている。全部で3つの吹き抜けがあるが、同じ高さのものはひとつとして無い。三層すべてを繋げるのではなく、二層分の吹き抜けをずらしながら設けることで、それぞれの性格付けがなされた。これらの吹き抜けは隣接する空間の「共用の場」となり、相互のつながりを生み出す。また同時に内部と外部の緩衝空間として機能することで、吹き抜けはやわらかく包まれた空間をかたちづけている。

ボックス内に納められたわずか3畳の客間にも、限られた面積を有効に使うための工夫が光る。ゲストルームという特別な存在に終止することなく、建具を開け放つことで



玄関ホールから見上げるロフトの頂部まで高さ 7m の吹抜け空間となっている。

吹き抜け、そして窓によってコントロールされている。

テラスはひとつの部屋として捉えられ、あえて一階からは接続せず、二階のリビングから階段を下るという動線が取られた。切り離された場所になってしまうのではないかという危惧もあったが、開口と吹き抜けを介してゆるやかに内部と繋がることで、完成から半年経ってもテラスは施主によってきちんと整えられているという。設計者の意図が居住者のくらしにきちんと反映されている様子が伺える。

ガルバリウム鋼板に寄せる信頼と期待

学氏が「卵の殻」と形容する、皮膜のような屋根と外壁は、白いガルバリウム鋼板仕上げで統一された。白い外壁に目地が影を落とし、軽やかなリズムを刻んで道行く人の目を楽しませる。このような軽快な表現が可能であるという点も、今回ガルバリウム鋼板を外壁として用いた判断材料のひとつであるという。学氏の自宅の外壁にも同じくガルバリウム鋼板が使用されており、素材への信頼感が伺える。

一方で、昨今における施工の担い手不足には大きな懸念を抱いているという。板金を扱う業種だけではなく、型枠大工や左官にもその話が及び、建築の「もの」としての側面を支える技術者の重要性があらためて指摘された。これは板金に限らず、ひいては建設業界そのものの存続に関わる問題である。学氏は「若手の育成を期待したい」と語られた。

多様な居場所

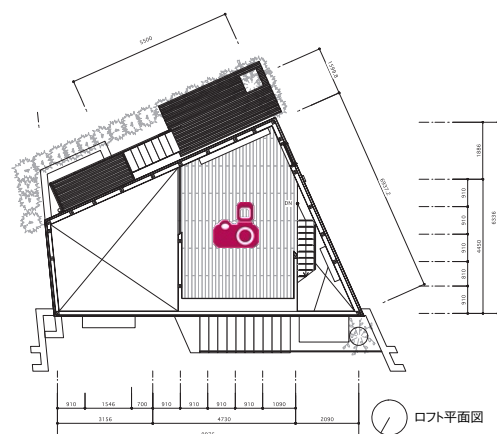
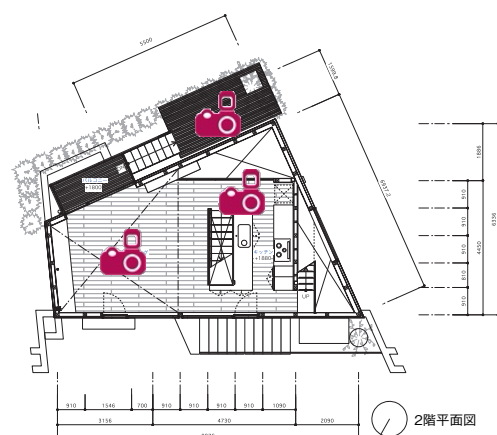
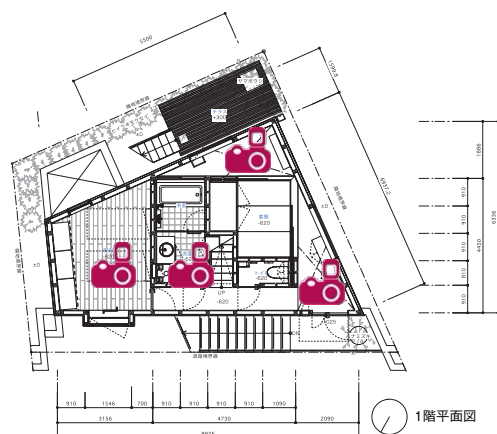
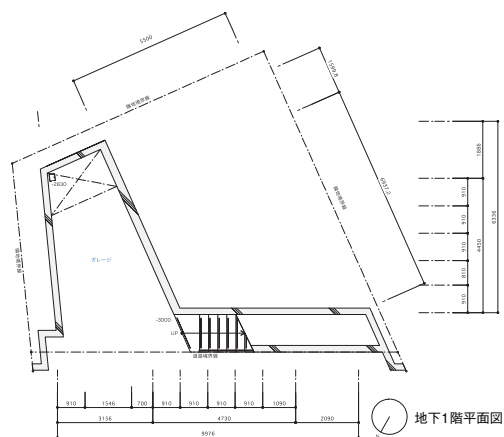
本を置く場所を確保してほしいという施主の要望から、本を一箇所に集めるのではなく、家のすみずみに吊り戸棚を設け、本棚を全体に分散させる方法が採られた。

日常的に使用できるよう心がけたという。引き残しが出ないよう建具はすべて壁面に収納され、その上で収納部分には蓋がつく。結果、建具の見込み部分さえ視界から消えるという周到ぶりだ。また隣接するホールとは350mmのレベル差が設けられ、小上がりになった畳に腰掛けることもできる。

室内を切り取る開口

建物北東側、テラスに接する開口部には、とりわけ力が注がれた。

リビングダイニング、キッチン、バス、ホール、玄関等、本来これらはお互いの位置からは見えない。しかし、階層をまたぐように設けられた窓と、緩衝空間としての吹き抜けが組み合わさることで、各機能はゆるやかなつながりを持ちはじめ。テラスから室内を覗き込めば、部屋同士が舞台装置のようにふるまう、不思議な関係性が読み取れる。視界の隅に相手が映る、ものを手渡す、あるいは呼びかけるといった、これら居住者同士の距離感が、各機能の巧みな配置と



データのダウンロード



テラスから室内を見る。テラスの窓からは、お互いに見えないキッチン、玄関ホール・客間、浴室が見通せる。

大空間を横断するようにしつらえられた階段や、大きな窓を介して外とつながるホール、あるいは法的斜線が天井に現れたロフトといった特徴的な空間に、小さな吊り戸棚を組み合わせることで、ひとつの住宅の中に多様な居場所が提供されている。蔵書が増えた際にも、吊り戸棚を増やすことでさらに豊かな居場所が増えそうだ。

また、専用の寝室が設けられてはいるが、寒い日には暖かい空気

のたまる最上階のロフトに寝床を移しているという。週末には気分を変えて寝床を変えてみるというような、ひとつの家の中で様々な活動がなされるということも期待できる。設計者の小さな気配りが部分部分に反映され、それらが有機的につながり、結果居住者に自由なふるまいが提供される。多様な居場所が家中のすみずみに行き届く、設計者の思いやりあふれた住宅である。

設計：納谷 学 + 納谷 新（納谷建築設計事務所）

納谷建築設計事務所／〒211-0002 神奈川県川崎市中原区上丸子山王町2-1376-1F

[tel] 044-411-7934 [fax] 044-411-7935 [e-mail] kawasaki@naya1993.com [URL] <http://naya1993.com/>

レポーター：東京大学 大月研究室 芦澤 健介(M1) 田畑 耕太郎(M1)

テーマ建築 13

哲学堂

工学院大学建築学部
藤森研究室

も と こ
担当 丸山 雅子

今回は東京都中野区にある世にも不思議な公園の話
をしよう。

明治 36 (1903) 年夏、東洋大学の創設者にして妖怪博士の異名をとる井上円了が、二度目の洋行から帰る途中、シアトル航路安藝丸の船上で偶然居合わせたのは武田五一だった。歳は一回り以上離れている二人だが、共通点が多い。帝大出身で、住まいは現在の文京区白山と西片で目と鼻の先である。共通の知り合いもいる。円了が数年前に建てた哲学館(現東洋大学)の校舎は、五一の尊敬する大沢三之助の設計である。大沢は帝大造家学科の五一の三年先輩で、茶道や仏道に通じた建築界きっての芸術家であった。いい話し相手ができたと互いに思ったに違いない。「安藝丸に乗りてもあきぬ気楽旅」と円了は詠んだ。さすがに数日経つと「安藝丸でなくてもあきる太平洋 ましてあき丸あきる筈なり」としたが、円了には考えることが山ほどあった。例えば出発前に購入した豊多摩郡野方村和田山の約 1 万 5 千坪の土地 (後の哲学堂) のことなど。



図1 哲理門 (1909年)
哲学堂の正門である。またの名を妖怪門という。向かって右に天狗、左に幽霊の木彫が置かれ、それぞれが物質界と精神界を象徴している。

同年秋、円了は「哲学館記念堂設計図」を発表する。これが哲学堂の出発点となる四聖堂 (1904 年竣工、図 2) である。設計は山尾新三郎で、顧問に大沢三之助、武田五一、古宇田実の三名を据えた。古宇田実は明治 35 年に帝大建築学科を卒業したばかりで、大学院では庭園建築を研究していた。顧問の三人は揃って美術通の建築家かつ研究者で、この上ない人選に思えるのだが、残念なことに、彼らが四聖堂とその後の哲学堂にどの程度関わったのかわからない。円了は明治 41 年に、それまでの哲学堂の建物は全て山尾新三郎の設計によるものと記し、円了の遺族は大正 9 (1920) 年に「設計意匠共に父の独創」としている。おそらく、円了の原案に忠実に山尾新三郎が建てたものだろう。



図2 四聖堂 (1906年) と六賢台 (1909年)
四聖とは孔子・釈迦・ソクラテス・カントの四人を、六賢とは聖徳太子・菅原道真・荘子・朱子・龍樹・迦毘羅の六人を指す。

明治 39 年に円了は大学を退き、哲学堂の拡張と整備に専心従事する。そして大正 4 (1915) 年に大方出来たところで、円了は「哲学堂七十七場」を発表する。それは哲学関、真理界、鑽仰軒、哲理門、一元牆、常識門、髑髏庵、復活廊、鬼神窟、接神室、靈明閣、時空岡、百科叢、四聖堂、唱念塔、六賢台、筆塚、懷疑巷、経験坂、感覚轡、万有林、三租苑、三字檀、三租碑、哲史蹊、唯物園、物字檀、客観廬、進化溝、理化潭、博物隄、数理江、観象梁、望遠橋、星界洲、半月台、神秘洞、狸灯、後天沼、原子橋、自然井、造化澗、二元衢、学界津、独断峽、唯心庭、心字池、倫理淵、心理崖、理性島、鬼灯、概念橋、先天泉、主観亭、直覚径、認識路、論理域、演繹観、帰納場、意識駅、絶対城、聖哲碑、観念脚、観察境、記念碑、相對溪、理想橋、理外門、幽霊梅、宇宙館、皇国殿、三学亭、硯塚、無尽蔵、向上楼、万象庫である。

これら七十七名称のうち、筆塚、硯塚、心字池、

記念碑は一般名詞であるが、その他は円了が考案した造語である。鬼灯、狸灯、物字檀、三字檀は形から造られ、四聖堂、六賢台、三租苑、三租碑、三学亭は円了が選んだ偉人を指す2字と場所や物を示す1字からなり、残りは、哲学に関係の深い言葉2字と建物や地形や自然などをあらわす1字の組合せからできている。

なかにはすでに失われたものもあるが、比較的に残っている。建物では、円了時代のものが十棟以上現存する。主なものを挙げると、まず目にするのは正門の哲理門である(1909年、図1)。小ぶりな八脚門ながら、その割りに大きな本瓦葺きの屋根を載せ、来訪者を神妙な面持ちにさせる。そして向かって右には天狗、左に幽霊の妖しげな木彫が安置され、「物質精気凝为天狗」、「心性妙用発为幽霊」の札が掛かっている。謎めいているが、物質界、精神界に囚われた姿の一つが天狗、幽霊ということなのだろう。

哲理門を抜けると明るく開けた広場、時空岡に出る。この一帯に哲学堂の建物は集中している。正面にあるのが、前述の四聖堂である。三間四方、宝形造り、四面正面の建物で、円了が選んだ古今東西の哲学の四聖人(孔子、釈迦、ソクラテス、カント)が祀られている。その右手の赤い六角三層の塔は六賢台(1909年)で、円了の選んだ東洋の六賢人(聖徳太子、菅原道真、荘子、朱子、龍樹大士、迦毘羅仙)が祀られている(図2)。四聖堂の左手には宇宙館(1913年)と奥に絶対城(1914年)がある。前者は哲学堂の講堂、後者は図書館として建てられたものである(図3)。



図3 宇宙館(1913年)と絶対城(1914年)
宇宙館は講堂、絶対城は図書館として建てられたもの。哲学堂の蔵書は、現在では東洋大学に収蔵されている。

ところで、敷地内の建物一つ一つに固有の名称がついているといえ、同志社大学が思い出されるだろう。同志社では創設者新島襄の言葉や聖書の文言から2字

をとって建物に命名する伝統がある。例えば昨年竣工した新校舎には良心館、志高館という名前がついたそう。命名法は哲学堂と似ているが、建物の配置とは関係なく命名されている点などで哲学堂とは異なる。



図4 井上円了の墓
星光山蓮華寺(東京都中野区)にある。円了自身が設計したもので、井の上に円が載っている。

あるいは、一つのテーマの下に何十もの場が創造されていることで、六義園を連想するかもしれない。六義園は江戸時代に柳沢吉保が築いた池泉廻遊式庭園で、和歌の名勝八十八境が見立ての手法で創り出されている。戦前は私邸だったため、自由に見学できる場所ではなかったが、明治38年に一度一般に公開されている。それに円了の住まいは六義園に近い。円了が六義園からヒントを得た可能性はある。だが哲学堂の場合は見立てとは違う。例えば絶対城を見たとき、絶対とは何か、なぜ図書館に絶対の名をつけたのか考えさせられるが、建物が絶対に見立ててあるわけではない。

考えるに、哲学堂は円了のマインドマップではなかろうか。マインドマップとは、単語と関連する単語を線でつないで思考をまとめ理解を深める手法である。哲学堂では例えば、懷疑巷の分かれ道で、一方は唯物園、一方は唯心庭に通じる。神秘洞から進化溝が連なり、博物院に至る。唯心庭への近道は直覚路で、認識路は迂回ルートで、途中に演繹観がある。哲学堂を歩くことは、円了が考えた哲学のマインドマップを辿ることではないか。それはただ立体で大きいだけではない。絶えず目耳鼻皮膚に刺激を受けながら、体を使って言葉から言葉へ移動する。謎めいた命名は思索を促す。哲学堂は世にも珍しい哲学のテーマパークである。

謝辞: 東洋大学井上円了記念博物館の北田建二さんにいろいろご教示いただいたことをここに記して感謝します。

街でみかける ファインスチールの施工例 その15



 [地図を見る](#)

Pasar (パサル) 羽生

2009 年 11 月に東北道下り線にリニューアルオープンした Pasar 羽生。ガルバリウムカラー鋼板 (t=0.4mm) 約 10 トンを使用した総面積 1,320 m² の屋根は、「洗練された粋な和風モダン」というコンセプトを十分に表現し、「東北道における旅の始まり」をイメージした空間造りに貢献している。延べ床面積 2,000 m²、地上 1 階建の施設内には、「和スイーツ」をはじめ、レストランや本格カフェ、焼きたてベーカリーやフードコートなど「こだわり・本物志向」の多彩な店舗が展開し、見るだけでも十分楽しめる。また、ショッピングゾーン「旬撰倶楽部(しゅんせんくらぶ)」では、厳選した旬の商品が取り扱われているので、帰省時のお土産や、大切な人への贈り物選びなどのギフトニーズにも対応しているのが嬉しい。

Pasar 羽生はこれからも、お客さまの記憶に残る情緒的な空間を演出する。



 [スライドを見る](#)



 [地図を見る](#)

菊南温泉スパリゾート 「あがんなせ」

2011年10月、熊本市にグランドオープンした、菊南温泉「美人の湯」が気軽に愉しめる滞在型スパリゾート「あがんなせ」。ガルバリウムカラー鋼板(t=0.4mm)約3トンを使用した総面積320㎡の屋根は、高級感あふれる外観の一翼を担っている。もちろん設備も充実しており、「美人の湯」として有名な炭酸水素塩泉を源泉とした大浴場や露天風呂、今注目の低温サウナ「チムジルバン」や家族風呂、さらにはご入浴に付き添いが必要な方でも気軽に入浴ができるよう、浴槽の縁に石椅子を設え、車椅子からの入浴をスムーズにした「親孝行風呂」など、様々なタイプのお風呂が楽しめる。また、湯上り後にゆったりくつろげる大規模なリラクゼーションルームには液晶テレビ付リクライナーを備えているので、テレビや読書などを楽しめる。もちろん女性専用スペースも完備。自慢のお食事処も、にぎり寿司・和食、イタリア料理、広島風お好み焼きなどをご用意。お子様からご年配まで、またご家族・ご友人同士で1日中ゆっくり気軽に愉しめる、立ち寄り湯気分が入館するともったいない施設である。



 [スライドを見る](#)

2012年秋号より 季刊広報誌「ファインスチール」の WEBマガジンが登場しました!



長年みなさまにご愛読いただいている季刊広報誌「ファインスチール」が、WEBマガジンとして2012年秋号より登場しました。

本誌では見れなかった建物の立体イメージや、掲載しきれなかった写真もスライドとしてご覧いただけます。さらに、バックナンバーの記事もキーワード検索できるなど、WEBマガジンならではのコンテンツが盛り沢山です。ぜひ一度、ファインスチールWEBマガジンを体験してみてください。

下記URLよりアクセスできます。

<http://www.finesteeel.jp/>

●外観CGイラスト



●スライド



ファインスチール

検索